

手術シミュレーション実習 (小林 優)

Practical Training of Surgical Simulation (Masaru Kobayashi)

キーワード

- ① 顎顔面病態診断治療学
- ② 顎顔面外科学
- ③ 顎変形症
- ④ 3次元画像診断
- ⑤ 顎形成手術

授業概要

顎変形症は口腔外科の重要疾患であるが、その手術の成否は、画像診断に依存するところが大きい。本実習では、過去の症例を通して従来のセファロ分析の限界を理解するとともに、近年、発展が目覚ましい3次元画像診断法や光造形模型を用いたモデルサージェリーの具体的方法を体得し、顎変形症に対する診断から治療までの一連の流れと、各種手術法のポイントを系統的に学ぶことを目的として開講した。

授業科目の学修目標

顎変形症の診断と治療に不可欠な3次元画像診断法について、実際の手順や診断装置の操作法について修得する。また、光造形法による模型作成の過程を体験し、実際に作成した模型を使用した各種顎形成手術のモデルサージェリーを実施して、手術の手順や成功のポイントについて自らが深く考察し、口腔外科医として実際の患者の診断・治療に参加できるようになることを目的とする。

授業計画

- ① 3次元画像診断実習 30コマ
 - ・下顎骨形成手術のための画像診断実習 15コマ
 - ・上顎骨形成手術のための画像診断実習 15コマ
- ② モデルサージェリー実習 30コマ
 - ・下顎骨形成手術のためのモデルサージェリー (SSRO, IVRO, ILRO) 15コマ
 - ・上顎骨形成手術のためのモデルサージェリー (LeFort I, Wassmund) 15コマ

実習担当教員 小林優 鈴木健司 小澤重幸 生駒丈晴

教科書および参考書

口腔外科学 医歯薬出版

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

教科書・参考図書の内容を十分理解すること

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 顎変形症の診断から治療までの流れを説明できる。
- ② セファロ分析の限界について説明できる。
- ③ 各種画像診断の利点・欠点を述べるができる。
- ④ 3次元画像診断法を実践できる。
- ⑤ 光造形模型上で各種顎形成手術を行うことができる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	実技	その他
0%	0%	20%	0%	0%	30%	50%	0%

評価の要点

- ・口頭試問：実習単位毎に理解度を判定する。 10%×3回=30%
- ・レポート：授業計画上の2項目について要約を提出する。 10%×2回=20%
- ・実技：過去の症例を基に3次元診断を実践し、光造形模型上で指定した手術を実施する。 25%×2回=50%

理想的な達成レベルの目安

総合評価で80%以上の達成を求める。